

平成17年東北地方一級河川の水質現況について

～ 東北地方の河川の水質は、前年より改善しました!! ～

平成17年(1～12月)に、東北地方の一級河川12水系の直轄(国土交通省)管理区間で実施した水質調査結果について、お知らせします。

平成17年の調査結果では、**94%(H16:92%)の調査地点でBODの環境基準を満足**しており、**前年より2%改善**されました。

また、平成17年からは、新しい水質指標(透視度、水のおい等)について、**住民との協働による調査を新たに始めました**。

流域住民の方々には、川遊びなどができる“きれいな川”を維持していくためにも、汚れた生活排水を減らすなどのご協力をお願いします。

【結果の概要】

◎水質ランキング(24河川)では、荒川(福島)が1位、須川(山形)が24位! (資料P1)

◎全地点がBODの環境基準を満足している水系は12水系中8水系! (資料P2)

◎ダイオキシンは全て環境基準以下、環境ホルモンは4水系(青森、宮城)で検出! (資料P4)

◎水質事故は、年間424件発生(前年より約3割増加)!

北上川水系(岩手)では、8,000Lの重油が流出し、取水停止! (資料P5)

◎新しい水質指標に基づいた住民との協働調査を新たに実施! (資料P6)

【各県別結果】 別添参照 (資料P9)

(添付資料)	I. 東北地方一級河川水質ランキング	P 1
	II. 水質調査の結果	P 4
	III. 水質事故発生状況	P 5
	IV. 新しい水質指標による調査結果	P 6
	V. 各県別概要	P 9

※添付資料以外の情報(全地点のBOD、水質状況図等)については、下記ホームページをご覧ください。
http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/plaza/jiko/suisitu_top/index_suisitu_top.htm

※東北地方整備局では、昭和35年から東北地方の一級河川(国土交通省の管理区間)で水質調査を実施しており、昭和47年以降、毎年、調査結果を公表しています。

<発表記者会> 東北6県県政記者会、東北電力記者クラブ、東北専門記者会

[本件に対するお問い合わせ先]

国土交通省 東北地方整備局 河川部 河川環境課

課長 ^{まつかわ}松川 正彦 (内線 3651)

建設専門官 ^{つちだ}土田 恒年 (内線 3656)

仙台市青葉区二日町9-15 TEL 022-225-2171 (代) FAX 022-215-3754

I. 東北地方一級河川水質ランキング

○河川水質ランキングは、以下の条件を満たす河川を対象としています。

一級河川本川： 直轄(国土交通省) 管理区間に調査地点^{注)}が2以上ある河川。

一級河川支川： 直轄(国土交通省)管理区間の延長が概ね10km以上、かつ直轄(国土交通省)管理区間に調査地点^{注)}が2以上ある河川。

注) 湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点は含まない。ダム貯水池は原則として調査地点に含まない。

○順位は、各河川における全調査地点のBOD(生物化学的酸素要求量)^{*1}年平均値を平均した値で評価しますが、平成11年から年平均値が同じ場合は75%値で評価しています。

◎水質ランキングは、「荒川(福島)」が1位、「須川(山形)」が最下位

東北地方の一級河川(24河川)の中で、水質が良い順に並べると次のとおりです。

東北地方24河川 における順位		全国(162河川) における順位		調査地点 の県名	水系名	河川名	BOD年平均値 (mg/L)		BOD75%値 (mg/L)		
H17	H16	H17	H16				H17	H16	H17	H16	
→	1	1	9	1	福島	阿武隈川	荒川	0.6	0.5	0.5	0.5
↑	2	3	26	26	秋田	雄物川	玉川	0.7	0.7	0.7	0.7
↓	3	2	31	11	山形	最上川	鮭川	0.7	0.6	0.8	0.6
↓	4	3	35	26	岩手	北上川	胆沢川	0.7	0.7	0.9	0.7
↑	5	6	44	56	岩手	北上川	和賀川	0.8	0.9	0.9	0.8
→	5	5	44	35	山形	赤川	赤川	0.8	0.7	0.9	0.8
↓	7	6	53	56	青森	馬淵川	馬淵川	0.8	1.1	1.0	1.4
↑	7	18	53	109	宮城	北上川	江合川	0.8	0.8	1.0	0.9
↓	9	6	60	56	宮城	名取川	名取川	0.9	0.8	0.9	0.9
↑	9	14	60	91	宮城	名取川	笹川	0.9	1.0	0.9	1.2
↓	11	9	66	64	宮城	北上川	旧北上川	0.9	0.8	1.0	1.0
→	11	11	66	75	宮城	鳴瀬川	鳴瀬川	0.9	0.9	1.0	1.1
↓	13	10	79	67	岩手	北上川	猿ヶ石川	1.0	0.9	1.1	0.9
↑	14	16	83	102	青森	岩木川	平川	1.0	1.1	1.2	1.3
↓	14	11	83	75	岩手・ 宮城	北上川	北上川	1.0	0.9	1.2	1.1
↓	14	13	83	85	秋田	米代川	米代川	1.0	1.0	1.2	1.1
↑	14	15	83	97	秋田	子吉川	子吉川	1.0	1.1	1.2	1.1
↓	18	16	98	102	秋田	雄物川	雄物川	1.1	1.1	1.3	1.3
↓	19	18	110	109	宮城	鳴瀬川	吉田川	1.2	1.1	1.4	1.4
↑	19	22	110	133	青森	岩木川	岩木川	1.2	1.4	1.4	1.4
→	21	21	127	121	山形	最上川	最上川	1.4	1.2	1.5	1.5
↑	22	23	128	143	福島・ 宮城	阿武隈川	阿武隈川	1.4	1.6	1.6	1.5
↓	23	18	133	109	岩手	北上川	磐井川	1.5	1.1	1.6	1.8
→	24	24	148	154	山形	最上川	須川	1.7	1.8	1.9	2.1

※ 1 BOD(生物化学的酸素要求量)は、河川の水質を示す代表的指標で、値が大きいほど水質が汚れていることを示す。

【参考：BODによる水の汚れの目安】

BOD (mg/ℓ)	用途及び適応
1以下	山岳部で見られるような河川で、水道水としても簡易な浄化操作で飲用できます。
2以下	ヤマメ、イワナ等が生息し、水道水としても通常の浄化操作で飲用できます。
3以下	サケ、アユが生息し、水道水としては高度の浄化操作が必要です。
5以下	コイ、フナが生息し、沈殿等で工業用水に使用できます。
8以下	農業用水として使用できますが、工業用水としては高度の浄化操作が必要です。

Ⅱ. 水質調査の結果

◎全地点で環境基準*2（BOD又はCOD*1）を満足*3している水系は8水系

類型指定*4区間内には水質調査地点が152地点ありますが、環境基準の代表的な水質指標であるBOD又はCODを満足した地点数の割合は約94%（152地点中143地点で満足）でした。これを前年の満足した地点数と比較すると2%上昇しました。

水系別の満足地点数の割合は図-1のとおりで、阿武隈川、鳴瀬川、馬淵川、岩木川、米代川、雄物川、子吉川、赤川の8水系では、全調査地点で環境基準値を満足しました。

前年より満足した割合が増加した河川は、北上川、高瀬川、岩木川でした。逆に、前年より満足した割合が減少した河川は、最上川（P11参照）でした。

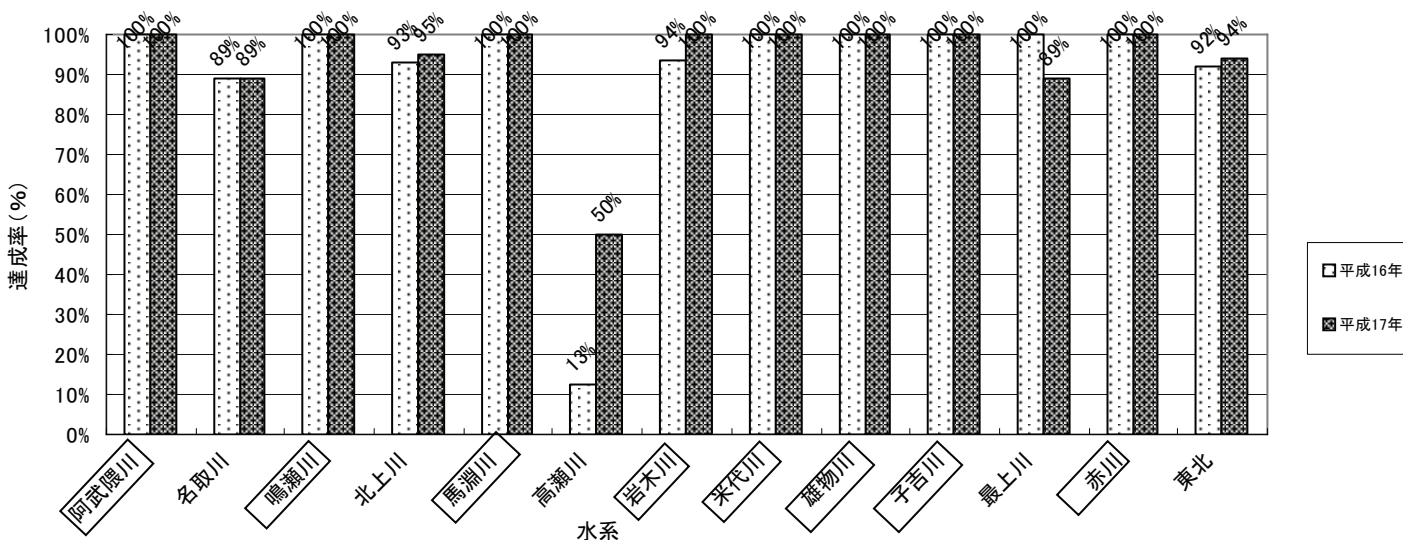


図-1 水系別満足地点の割合

※1 COD（化学的酸素量）は、ダム、湖沼等の水質を示す代表的指標で、値が大きいほど水質が汚れていることを示す。

※2 環境基準は、川の一定の区間及びダム・湖沼で、望ましい水質の目標を定めた値。

・河川における類型別環境基準は以下のとおりである。

AA類型	BOD 1mg/ℓ以下	B類型	BOD 3mg/ℓ以下	D類型	BOD 8mg/ℓ以下
A類型	BOD 2 "	C類型	BOD 5 "	E類型	BOD 10 "

・ダム・湖沼における類型別環境基準は以下のとおりである。

AA類型	COD 1mg/ℓ以下	B類型	COD 5mg/ℓ以下
A類型	COD 3 "	C類型	COD 8 "

※3 環境基準を満足とは、環境基準を定めた河川の区間で、代表する地点（環境基準点）の水質の測定値が、目標とする環境基準の値を満足しているかで判断します。一般に河川ではBOD75%値、ダム・湖沼ではCOD75%値で判断します。75%値とは、月1回の水質測定で、年12回分のデータがあった場合、そのデータを小さい順から並べ12回×0.75⇨9番目のデータの値を言います。

※4 類型指定とは、生活環境項目の環境基準を定めた河川の区間、又はダム・湖沼で、目標とするBOD、CODを当てはめたもので、類型の種類は上記※2がある。

◎全河川でサケやアユの生息に適する水質（BODで3mg/L以下）

東北地方の全ての一級河川（国土交通省管理区間）におけるBOD（生物化学的酸素要求量）の平均値は約1.2mg/Lで、**全地点でサケやアユの生息に適した水質**となっています。

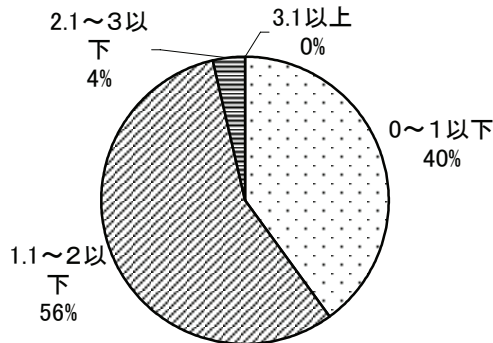


図-2 BOD値ランク別割合

BOD 2mg/L以下： ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 BOD 3mg/L以下： サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
 BOD 5mg/L以下： コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用

◎健康項目は、環境基準をほぼ満足

「人の健康の保護に関する環境基準」26項目^{*1}のうち、平成17年は12水系132地点8,717検体を調査し、**砒素が1カ所、鉛が1カ所で超過**^{*2}した以外はすべて環境基準を満足しました。

超過した砒素及び鉛は、温泉等の地質由来のもので、下記の地点で環境基準を満足しませんでした。

超過項目	地点名			分析値（年平均） （mg/L）	環境基準値 （mg/L）	原因
	水系名	河川名	地点名			
砒素	北上川	大深沢	大深沢（宮城県鳴子町）	0.023	0.01以下	地質由来 自然湧出 （温泉等）
鉛	雄物川	玉川	玉川ダム（秋田県田沢湖町）	0.018	0.01以下	

^{*1}健康項目： カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素

^{*2}砒素および鉛の環境基準値は0.01mg/リットルで、年間の平均値をもって評価します。

◎要監視項目は、全地点で指針値を満足

要監視項目^{*}は、人の健康の保護に関連する項目で、現時点では環境基準項目となっておらず、環境基準値は定められていません。その代わりに、指針値という形で示されており、その値で評価しています。

平成17年は、**10水系39地点237検体を調査し、いずれも指針値を満足**しました。

^{*}要監視項目： クロロホルム（トリクロロメタン）、トランス-1,2-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロプロパン、p-ジクロロベンゼン、イソキサチオン、ダイアジノン、フェントロチオン、イソプロチオラン、オキシ銅、クロロタロニル、プロピザミド、EPN、ジクロルボス、フェノブカルブ、イプロベンホス、クロロニトロフェン、トルエン、キシレン、フタル酸ジエチルヘキシル、ニッケル、モリブデン、アンチモン

◎農薬項目は、全地点で指針値を満足

平成2年に環境庁（現環境省）で「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針」がまとめられ、項目と指針値が示されています。

国土交通省は、河川でこれらの項目の水質調査を実施した結果、農薬に関する45項目のうち、平成17年は10水系54地点776検体を調査し、いずれも指針値を満足しました。

◎ダイオキシンは、全地点で環境基準を満足

平成17年度における東北の一級河川において、ダイオキシン類^{※1}を調査した結果^{※2}、12水系29地点全てで環境基準を下回っています。

今後も監視を行っていくとともに、過去に比較的高濃度なダイオキシン類が検出された地点においては、引き続き監視を強化していきます。

※1：主にゴミの焼却や化学物質の合成時に生成される有機塩素化合物で、一般にポリ塩化ジベンゾ-p-ダイオキシン（PCDD）と、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）をまとめてダイオキシン類と呼び、コプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナー-PCB）のようなダイオキシン類と同様の毒性を示す物質をダイオキシン類似化合物と呼んでいます。ダイオキシン類対策特別措置法においては、PCDD及びPCDFにコプラナー-PCBを含めて「ダイオキシン類」と定義されました。

※2：この調査は、平成12年1月15日に「ダイオキシン類対策特別措置法」が施行されたことを踏まえ、国土交通省では一級河川直轄管理区間のダイオキシン類濃度の実態把握を目的に水質と底質の調査を行っています。

◎環境ホルモンは、4水系5地点で検出

平成17年度における東北の一級河川において、環境ホルモン（正式名称「内分泌かく乱物質^{※1}」という。）として疑いのある物質について、水質8項目^{※2}および底質1項目^{※3}を調査した結果、13地点中、下記の4水系5地点で1項目（エストロン）が検出されました。

現在、環境ホルモンについては、環境基準が無いことから、今回の調査結果について問題があるかどうかの判断はできません。しかしながら、将来的な対策等のため、データの蓄積を図る必要があることから、引き続き、水系1地点以上という原則等を考慮し、それまでの調査結果を基に効率化・重点化を図りながら、重点監視地点となっている箇所は毎年、その他の箇所は3年から6年サイクルで監視を継続していきます。

物質名：（水質）エストロン ^{※4} （ $\mu\text{g/L}$ ）							重点調査濃度 ^{※5}
調査地点		H13	H14	H15	H16	H17	
岩木川	三好橋(青森県五所川原市)	0.00067	0.00055	ND	ND	0.0013	0.0005
	乾橋(青森県五所川原市・つがる市)	—	—	ND	ND	0.0013	
名取川	関上大橋(宮城県仙台市)	—	ND	—	—	0.00064	
阿武隈川	岩沼(宮城県岩沼市)	ND	0.00076	ND	ND	0.0011	
北上川	登米(宮城県登米市)	ND	ND	—	—	0.00075	
東北管内での検出箇所数		2	2	2	0	5	

—：未観測 ND：不検出

※1 内分泌かく乱物質：動物の生体内に取り込まれた場合に本来その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因性物質。

※2 水質調査項目：4-tert-オクチルフェノール、ノニルフェノール、フタル酸ジ-n-ブチル、ビスフェノールA、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル、エストロン、17 β -エストラジオール

※3 底質調査項目：ベンゾ(a)ピレン

※4 エストロン：エストロゲン活性（哺乳類卵巣や乳腺の発育を促し、二次性的性徴（乳房）を発達させる等）を起こす物質です。既往の報告等が十分ではない状況であり、河川への影響は未解明で、環境基準は設定されていませんが、国土交通省では独自に重点調査濃度を設定しています。

※5 重点調査濃度：重点的な調査を実施するか否かの判断基準として、国土交通省河川局が独自に設定したものです。

Ⅲ. 水質事故発生状況

◎水質事故は、年間424件発生（前年より約3割増加）！

北上川水系(岩手県)では8,000Lの重油が流出し、取水停止！（H17.4.6発生）

平成17年1月から12月までに、取水に対して影響を与えるおそれがある水質事故は、189件発生しました。このうち、11件で取水が停止し、なかでも**平成17年4月6日に北上川水系和賀川（岩手県北上市）で発生した、温泉施設からの重油流出(8,000L)による水質事故では、上水道・工業用水の取水停止**を伴い、油回収等の事故処理が長期化しました。

その他の事故については、水質汚濁対策連絡協議会の関係機関の対応により、取水停止を伴う重大事故には至りませんでした。

なお、**規模の小さいものまで含めた場合には、ここ数年で最も多い424件の水質事故情報**が東北地方整備局に寄せられました（平成16年は324件で、**約3割の増加**）。

水系別では、図-3のとおり、北上川、最上川、阿武隈川で全体の約7割を占めました。

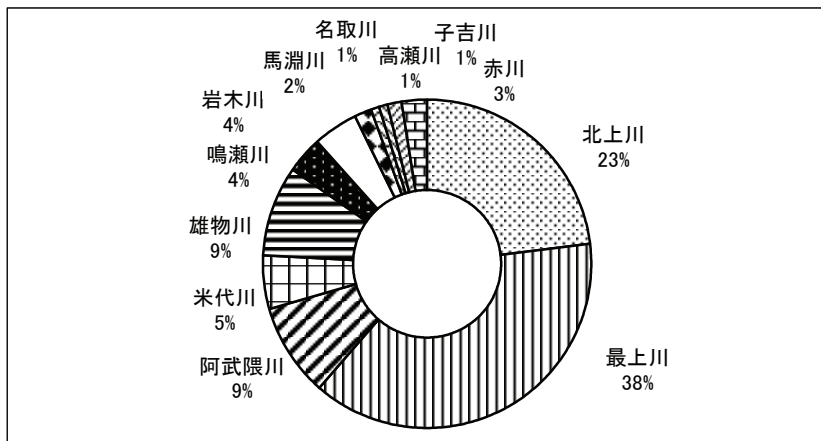


図-3 水系別水質事故発生状況

◎水質事故の原因は、9割が油の流出、5割が人為的ミス

事故を原因物質別で見ると、昨年同様、**油の流出事故が最も多く、全体の9割近く**を占めました（図-4）。原因別にみると、操作ミスと機器の不備を合わせた**人為的な不注意によるミスが全体の約5割**を占めました（図-5）。

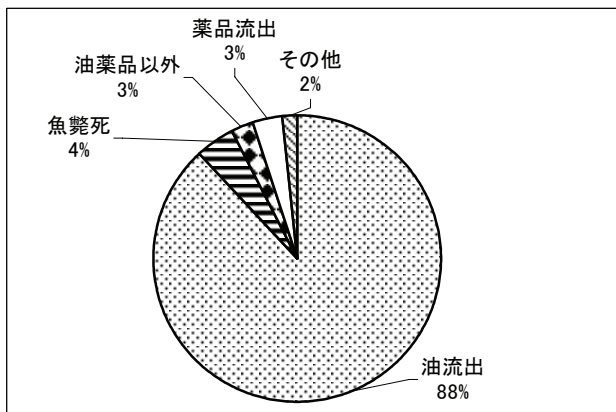


図-4 事故種類別発生状況

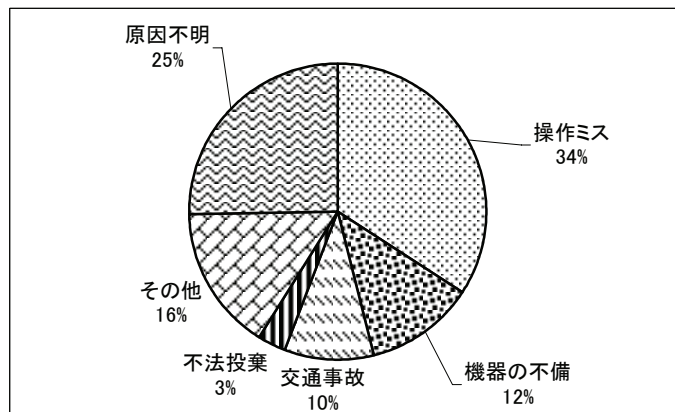


図-5 事故原因別発生状況

IV. 新しい水質指標による調査結果

◎新しい水質指標に基づいた「住民との協働調査」を新たに実施。
 半数近くの調査地点が“川の中に入って遊ぶことに適している”と評価！
 ほとんどの調査地点が“生物の生息等の環境として非常に良好”と評価！

水質を従来のBODだけではなく、多様な視点から評価するための新しい水質指標（表-1、表-2）を定め、平成17年から新たに調査を行うこととなりました。

表-1の「ゴミの量」、「透視度※1」、「川底の感触」、「水のおい」並びに表-2の「水生生物の生息」は、住民と協働調査を実施し、「糞便性大腸菌群数※2」や「DO（溶存酸素）※3」、「NH₄-N（アンモニウム態窒素）※4」は、河川管理者が調査を実施しました。調査結果を項目毎に評価するとともに、総合的な評価を行ってランク付けしています。

○「人と河川の豊かなふれあい」の調査結果

- ・11水系16地点で調査を実施。住民協働調査に16団体、204人が参加。
- ・総合評価は、「Bランク（川の中に入って遊ぶ）」が7地点、「Cランク（川の中に入れないが川に近づくことができる）」が9地点でした（図-6）。

○「豊かな生態系」の調査結果

- ・10水系13地点で調査を実施。住民協働調査に20団体、266人が参加。
- ・総合評価の「Aランク（生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好）」が14地点、「Bランク（良好）」が2地点、「Cランク（良好とはいえない）」が1地点でした（図-7）。

表-1 調査項目と評価レベル

ランク	説明	ランクのイメージ	項目と評価レベル				
			ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水のおい	糞便性大腸菌群数 (個/100L)
A	顔を川の水につけやすい		川の中や水際にゴミは見あたらない。または、ゴミがあるが全く気にならない。	100以上	不快感がない		100以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる。	70以上	ところどころヌルヌルしているが、不快ではない	不快でない	1000以下
C	川の中に入れないが川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である。	30以上	ヌルヌルしており、不快である	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる。風下の水際に立つと不快な臭いを感じる。	1000を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあって、とても不快である。	30未満		風下の水際に立つと、とても不快な臭いを感じる。	

※1 透視度：水の濁り具合を示す指標で、値が大きいかほど濁りが少ない。

※2 糞便性大腸菌群数：人や動物の排泄物に由来する大腸菌群により、水の汚染状況を調べる指標。

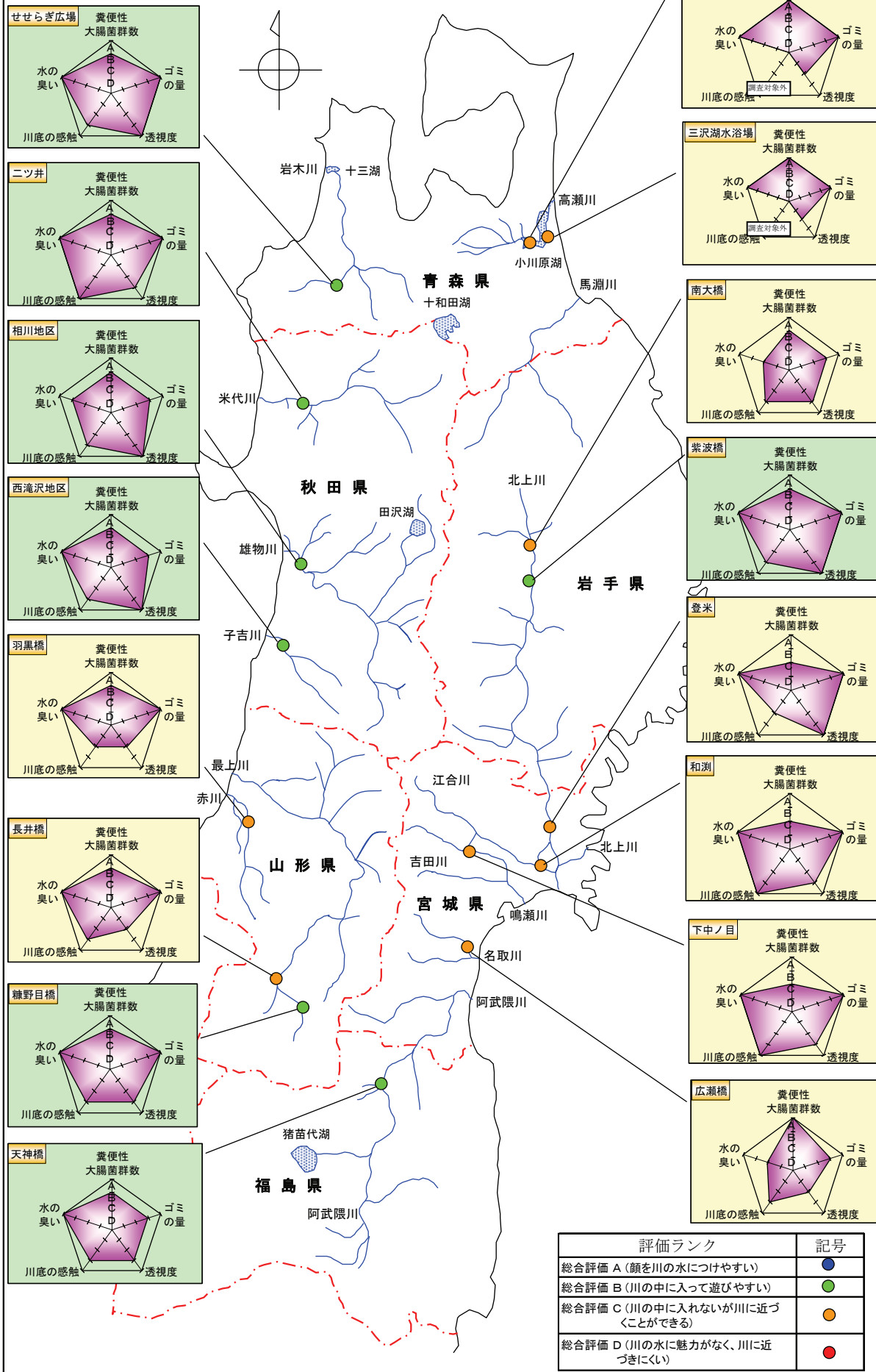
表-2 調査項目と評価レベル

ランク	説明	項目と評価レベル		
		DO (mg/L)	NH ₄ -N (mg/L)	水生生物の生息
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I きれいな水 ・カワゲラ ・ナガトビゲラ 等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	II 少し汚い水 ・コガタシマトビゲラ ・オオシマトビゲラ 等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	III 汚い水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ 等
D	生物の生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	IV 大変汚い水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ 等

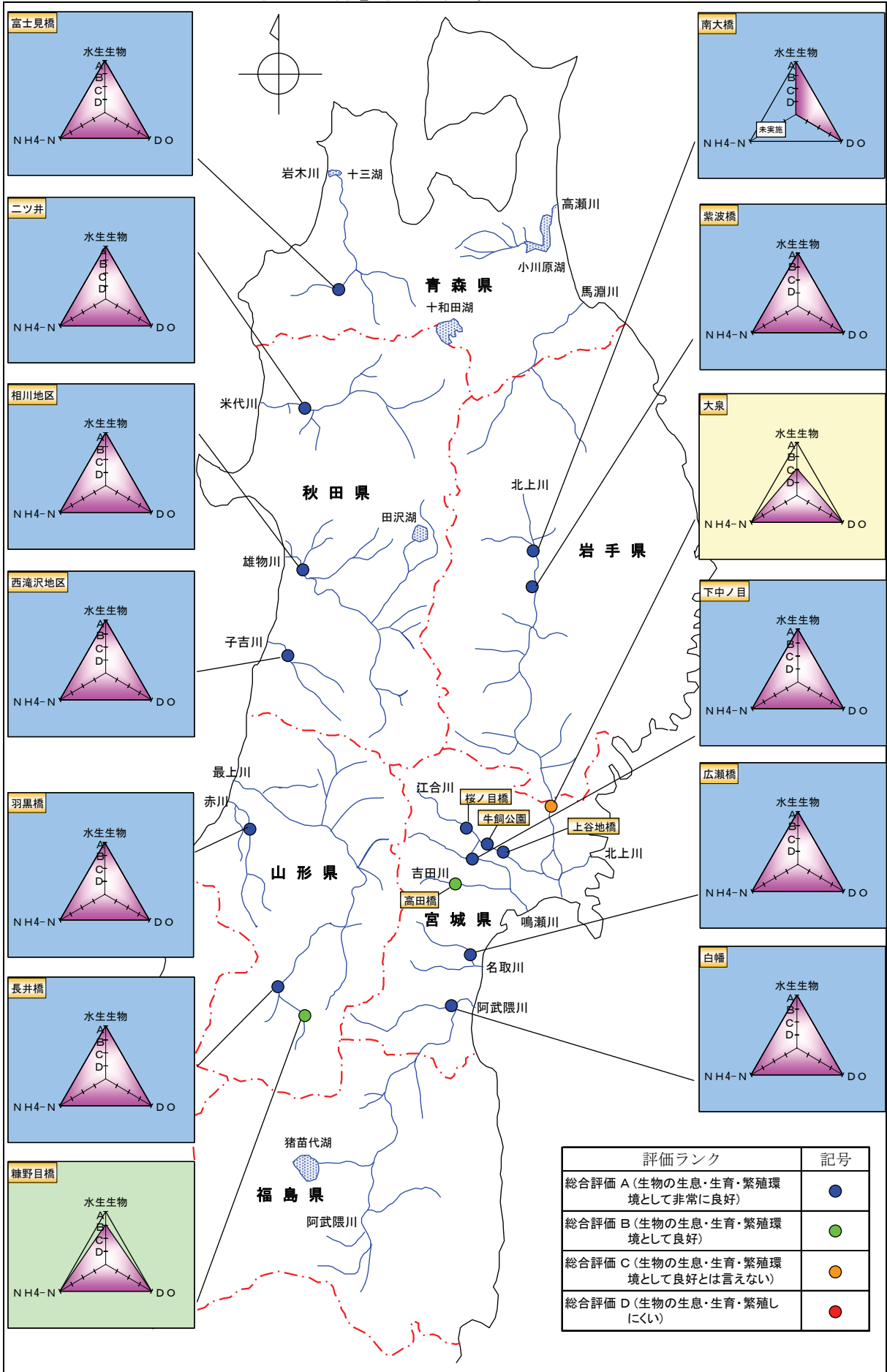
※3 DO：水生生物が生きていくうえで不可欠な水中の酸素量。

※4 NH₄-N：水生生物に影響を与える毒性を評価する指標。

図-6 「人と河川の豊かなふれあいの確保」評価結果



図一七 「豊かな生態系の確保」評価結果



V. 各県別概要

◎青森県内の調査結果概要（岩木川水系、馬淵川水系、高瀬川水系）

- 馬淵川、岩木川では、全地点で環境基準（BOD）を満足
- 高瀬川（COD）は、環境基準を満足した地点が大幅に増加
- 岩木川で、環境ホルモン（エストロ）が検出（P4参照）
- H16に比べて水質事故が8割増加。岩木川では前年の2倍発生。

【環境基準の満足状況】（BOD, COD75%値）

	観測地点数	満足地点数	割合		環境基準超過地点
			H17	H16	
青森県全体	27	19	70%	70%	
岩木川	16	16	100%	94%	
馬淵川	3	3	100%	100%	
高瀬川 (小川原湖)	8	4	50%	13%	小川原湖 No. A、 No. B、高瀬橋、河口

【水質事故発生状況】

- ・青森県全体・・・30件（H16：17件）（東北全体の7%）
- ・岩木川・・・・・・18件（H16：8件）
- ・馬淵川・・・・・・7件（H16：5件）
- ・高瀬川・・・・・・5件（H16：4件）

◎岩手県の調査結果概要（北上川水系）

- 河川は環境基準（BOD）を満足しているが、一部の湖沼で環境基準（COD）を超過
- 胆沢川と和賀川が“水質ランキング”の上位にランク。磐井川は水質が悪化し、“水質ランキング”の下位にランク（P1参照）。
- H16に比べて水質事故が3割増加。
北上川水系和賀川では8,000Lの重油が流出し、取水停止！（P5参照）

【環境基準の満足状況】（BOD, COD75%値）

	観測地点数	満足地点数	割合		環境基準超過地点
			H17	H16	
北上川 (岩手県内)	30	29	97%	94%	石淵ダム

【水質事故発生状況】

- ・72件（H16：57件）（東北全体の17%）

◎宮城県内の調査結果概要（北上川水系、阿武隈川水系、名取川水系、鳴瀬川水系）

- 河川は環境基準（BOD）を満足しているが、一部の湖沼で環境基準（COD）を超過
- 北上川水系大深沢で、砒素が環境基準を超過（P3参照）
- 北上川、阿武隈川、名取川で、環境ホルモン(エストロン)が検出（P4参照）
- 水質事故は、北上川・鳴瀬川（県北部）で増加、阿武隈川・名取川（県南部）で減少

【環境基準の満足状況】（BOD, COD75%値）

	観測地点数	満足地点数	割合		環境基準超過地点
			H17	H16	
宮城県全体	32	30	94%	94%	
北上川	10	9	90%	90%	鳴子ダム
阿武隈川	6	6	100%	100%	
名取川	9	8	89%	89%	釜房ダム
鳴瀬川	7	7	100%	100%	

【水質事故発生状況】

- ・宮城県全体・・・52件（H16：47件）（東北全体の12%）
- ・北上川・・・**26件（H16：20件）**
- ・阿武隈川・・・6件（H16：11件）
- ・名取川・・・4件（H16：6件）
- ・鳴瀬川・・・**16件（H16：10件）**

◎秋田県内の調査結果概要（雄物川水系、米代川水系、子吉川水系）

- 県内各河川の水質（BOD）は、全地点で環境基準を満足
- 雄物川水系玉川で、鉛が環境基準を超過（P3参照）
- 玉川が“水質ランキング”の上位にランク（P1参照）
- H16に比べて水質事故が2割増加。特に、雄物川では8割増加。

【環境基準の満足状況】（BOD75%値）

	観測地点数	満足地点数	割合		環境基準超過地点
			H17	H16	
秋田県全体	26	26	100%	100%	
雄物川	15	15	100%	100%	
米代川	7	7	100%	100%	
子吉川	4	4	100%	100%	

【水質事故発生状況】

- ・秋田県全体・・・**64件（H16：52件）**（東北全体の15%）
- ・雄物川・・・**37件（H16：21件）**
- ・米代川・・・23件（H16：29件）
- ・子吉川・・・4件（H16：2件）

◎山形県内の調査結果概要（最上川水系、赤川水系）

○最上川では2地点が環境基準（BOD）を超過。
 赤川では全地点で環境基準（BOD）を満足。
 ○最上川水系須川が、前年に引き続いて“水質ランキング”の最下位。
 最上川水系鮭川と赤川本川が“水質ランキング”の上位にランク（P1参照）。
 ○H16に比べ、最上川の水質事故が6割増加。
 東北地方で最多の162件（東北全体の水質事故の約4割）が発生。

【環境基準の満足状況】（BOD、COD75%値）

	観測地点数	満足地点数	割合		環境基準超過地点
			H17	H16	
山形県全体	23	21	91%	100%	
最上川	18	16	89%	100%	中村(寒河江川)、船戸橋(村山野川)
赤川	5	5	100%	100%	

【水質事故発生状況】

- ・山形県全体・・・173件（H16：108件）（東北全体の41%）
- ・**最上川・・・162件（H16：100件）（東北全体の38%）**
- ・赤川・・・11件（H16：8件）

◎福島県内の調査結果概要（阿武隈川水系）

○全地点で環境基準（BOD）を満足
 ○阿武隈川水系荒川が、昨年に引き続いて“水質ランキング”の1位。
 阿武隈川本川は、やや水質が改善されたものの、“水質ランキング”の下位にランク（P1参照）。
 ○H16よりも水質事故が2割減少（県単位で比較すると、東北地方の中で、唯一、前年よりも水質事故が減少）

【環境基準の満足状況】（BOD、COD75%値）

	観測地点数	満足地点数	割合		環境基準超過地点
			H17	H16	
阿武隈川(福島県内)	14	14	100%	100%	

【水質事故発生状況】

- ・**33件（H16：43件）**（東北全体の8%）